

れいわ ねんど 令和4年度
むさしのしちいきじりつしえんきょうぎかい 武蔵野市地域自立支援協議会
しょうがいとうじしゃぶかい 障害当事者部会
かつどうほうこく 活動報告

ぶかいかいさいび
■部会開催日

がつ にち げつ 4月18日(月)、5月16日(月)、6月20日(月)、7月11日(月)、8月15日(月)、
がつ にち げつ 9月12日(月)、10月17日(月)、11月21日(月)、12月19日(月)、1月16日(月)、
がつ か げつ 2月20日(月)、※3月20日(月)(※開催予定) いじょう かい 以上12回

むさしのしちいきじりつしえんきょうぎかい 武蔵野市地域自立支援協議会のテーマと活動方針
かつどうほうしん

テーマ：「当事者ととともに多様な人々と協働して武蔵野市の地域課題に取り組む」

かつどうほうしん 活動方針：「武蔵野市障害者計画・第6期障害福祉計画」の示す地域課題の解決・改善に
と 取り組む

しょうがいとうじしゃぶかい
■障害当事者部会のミッション

これまでの障害当事者部会の活動を継承し、当事者の視点から武蔵野市の地域課題を
提示する。他の専門部会の役割及びミッションを踏まえて、それらの協議・活動に障害
当事者部会の代表として参画する。計画に掲載された「心のバリアフリーハンドブック」
の改訂(改訂作業は別に委員会が担当している)に協力する。

※重点6【P41】、施策1(3)【P46】

かつどうほうこく こんご お
■活動報告と今後に向けて

部会を開催する際は、コロナ感染症の予防をした会場設置と、コロナ前から使用して
いたオンラインツールを使用し両方で行った。対面が増えてきたところだが、引き続きこ
の2つの体勢がとれる調整が必要と感じている。

しょうがい 障害のある人が地域で自立生活を送るのに必要な人のアテンダントについて、治療や

にゅういん ひつよう ばめん せいげん お いのち きき かん かん ちい せい いかつ
入院が必要な場面で制限が起きた。命への危機感を感じたことと、地域生活でこのよう
なことが起こらないよう、関係各所との連携や協定などの体制強化が必要と、「コロナ禍
における障害のある人の命と生活を守る医療について」として親会で緊急提言を
行った。

「心のバリアフリーハンドブック」の改訂では、障害のある人も、その人個々によっ
て違うため、障害種別の説明部分の修正提案と、社会モデルを知ってもらうことが必要
とした意見を提出した。改訂作業の事務局では市内の諸団体へのヒアリングをされており、
そのご意見も合わせて調整した改訂内容になるとの報告があり、その最終版を待ってい
る所である。

数年ぶりに開催された「むさしのあったかまつり」では、障害当事者部会の紹介とし
て、誰もが参加できる模擬選挙を開催してきた内容の説明動画を作成した。「こういうこと
あったらいいなあ。これ、困っています」の掲示板には多く書き込みがあり、コロナ禍生活
での活動制限があったことと、早くそれがなくなることを願う声が多くあった。

「気軽に立ち寄りおしゃべりがしたい。」「息抜きができる場所があると、生活に彩りや
元気が出る。皆で集える場所があるとよい。」このような意見が部会で出ている。そして、
日頃から知ってもらうことがやはり必要ということから、以前、行っていた「ふれあいカ
フェ」や「座談会」を他部会と一緒に開けるよう、提案していくのがいいのではないかと
いう意見が出ている。

最後に、今年度9月に国連の障害者権利委員会から総括所見が出された。懸念事項と
改善勧告の中では、19条「自立した生活及び地域生活への包容」と24条「教育（イン
クルーシブ教育）」を強い懸念点とされている。地域生活や緊急時の体勢を構築していこ
うとする今、障害のある人への偏見や差別の解消に向けて、枠を越えた取り組みが求め
られている。